

優秀賞 岐阜県 田口 莉子 様 (高校生)

私と年金と言っても、高校生の私にとっては遠い存在のように感じます。しかし、私は、こんな会話を耳にしたことがあります。母がおじいちゃんに

「ちゃんと働いて、お金を納めて、年金もらうことが出来てよかったね」

と言っていました。おじいちゃんは、現在81歳で腰も曲がり、耳も遠いですが、とても元気です。だから、同時にそんなおじいちゃんも、もう16年間年金を受け取っているのだな、と感じた瞬間でした。この時は、年金について、おじいちゃんのように仕事を辞めた、お年寄りがもらえるものという知識しかなく、会話についても深く考える事なく終わってしまいましたが、先日、学校で年金講座を受けさせていただき、年金について知る機会をいただきました。この年金講座では、高齢者と呼ばれる人がもらうものという私の年金の知識を超え、老齢年金、障害年金、遺族年金の3種類もある事を知りました。ただただ年を重ねた先にあるものが年金だと思い込み、遠い存在だと思っていたけれど、障害者になることや、父が働けなくなることなどは、近いうちに起こりうる可能性があることです。もちろん、障害になることや家族の身に予期せぬ事が起こる事など考えたくないですが、いつ、誰に、何が起こるかなど誰にも予測が付きません。年金は、そんな時に金銭的に支えてくれるものなんだと感じました。年金は、高齢者だけでなく、本当に困っている人の元へお金が入り、安心した生活を送る上で1つ、存在を成していると思います。

また、年金の存在理由としてとても納得でき、共感できた部分がありました。それは、今のライフスタイルの変化に対応した制度ということです。昔は、おじいちゃん、おばあちゃんと生活する二世帯家族が主流であり、家庭の中で金銭的にも支え合い、生活できていましたが、核家族が増えている現在は、生活が全く別であり、金銭的にも頼りづらい環境にあります。そんな中で、年金制度がある事によって、国を通して、老後生活を送る両親に生活費の一部を送ることと同じだと思います。さらに、年金は、身寄りのないお年寄りも受け取る事ができ、結婚しない人も増えている現在、独身の人も将来への安心に繋がりと、とても現在に適応したいい制度だと思います。

しかし、年金について否定的な意見が絶えない事も事実です。「自分で貯金した方が得」、

「年金は税金泥棒」、「将来、自分がもらえるかわからないのに」など、多くの声があがっています。それに加えて、少子高齢化が進む日本において、働く世代よりも多い高齢者の生活を支えていく事は、大変なことに感じますし、更なる少子高齢化が予想され、働く世代と高齢者の比が 2 対 1 になってくると言われている中、年金制度に疑問や不安を抱くことは、不思議な事ではないと思います。それでも、国として年金制度が実行されているのは、その裏に信頼できるシステムがあるのだと思い、少し私自身調べてみました。その中で、印象に残った言葉は、公的年金は貯蓄ではなく、万が一に備える保険の様な存在である、という言葉です。これは、障害年金や遺族年金では当てはまる言葉に感じますが、老齢年金については当てはまらない様にも感じます。しかし、万が一自身の想像以上に長生きした事を考えると、どうでしょうか。蓄えが底を尽き、苦しい生活を送らなくてはならないかも知れません。人生 100 年時代とも言われ、何歳まで生きるのか自身では分からない中で貯蓄を崩して生活する事は、すごくリスクのある事のように感じます。そう考えると、死ぬまで受け取れる年金は、安定した生活を送り続けられる事につながると思います。まさに、年金は、自身が障害になった時、遺族になった時、想像以上に長生きした時のもしもの備えになるのです。

年金の知識を得た今、20 歳から国民年金に加入でき、私自身のもしものに備えることや、私のもしものが他人のいざという時に役立つことは、助け合いのような感覚で嬉しいことだと思うので、私は 20 歳になったら、必ず国民年金に加入したいと思います。あと、5 年後というタイミングで、年金についての知識を身につける事が出来て、自分にとってプラスになったと思います。残り 5 年、大人になっていく私は、新しくなっていく年金の情報を取り込み、自分の中で正しく理解していくとともに、国民年金に関われるように仕事をして、きちんとお金を納められる一人前の大人になっていきたいです。